城、琉球管絃被

聞召品目并

日笄

赐领

蹑等 二

仰付

き紛以遠聞処違寄神い見きえ追之候 合敷遵沖事、美忧 を航候合す大七之 東之後を寄洋有色 申数は乗朝を之方 間立も候鲜桑全相 九 敷方至節地候〈見 朔 候遠可忧方様三江 琉 球 申之近子、本既 教立く以悦よ 依方兼前之先之近 之異通と後達迪年 城 以国候小小而解北 飾 來船も相難も等国 禮 ハス有違相異異節 異似之之成目目其 同 目寄由 趣節舩 船外 一 船候其よるとよ諸

よを外相候見似国

同 年十二月朔日、松 よ付出格之 浦得置論取え漢を有近四 訳 方方 使之締不其取之年 平 * 以 大 町相後事筋届外引義い御 隅 方弛年よえよれいるは觸 守齊興流 共候 數俟後付国之候と八唐 叙入 相 一是今節 | 既 先 加 正 念→ 立共追般之候去〈年拔四 自文迚吟者者戌相よ荷位 球質慶使百 相及然化心味共共年弛卫之上 改年其二銘之不被中外度食 候以支型、上正行越不、よ 配年無夫之嚴後正相付

> 長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

1 2 2m3 4 5 6 7 4 8 9 10 1 2 well 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

節中油:物科国之觸而

羽根田奉行

受取問致古衛配の外子

天保 十四年三月十五 日。宝 (E) 部 右 衛門。 33 根

組頭 新規 被 14

外早候○流通此内 同年 八月 達候等れ 気而に候 御 候様乞の有いタ其書通可候浦之唐に外付 可被专:候紅へ之候日 心計、一共毛申內者本 徒席得候其東決之渡 八人 与之 侯 其 廉 寄 而 外 外 連 手 之 而候請外国越寄丹之八 己共取国之候次外上御致去申之者共第国

百 日長崎表佈 締之儀被 仰 出

御軍用金成 五 右央 二 云製 えいる二月 H 量行 よ 目す 至 及藏 追 年兒 軍用金造製銀其形 号軍 月資 日奏を平 方宝

うの下分

お事も 二八并 月よ + 百臣 F 限同 目共 渋 ナ 2 ! 造者 谷 B 赤不込芸等 今青古井御勝 鉄炮 谷目手 谷月子場一个分次衛 同櫻第 取建

伊 豆 画 下田衛備場へ相 廽 候

> 長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 west 3 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

t

H

和蘭使節來

申仕丹奉

候国候汉

処仕旨美

昨出を作

日よて御

未て、何届

紅申王月

入其持即長年

津段泰必崎七

御鉄炮新規鋳立, 御用骨候よ付, 御鉄炮方一時服 阿 候場入場 六 月 蘭 つ.可 听 二般以守 陀 申當 1 本 B 候分 国 且梅梅 是見書付。 下以蘭各よ 刻使たる。 と 右節目去使 外よ組下 場句同田 も越よす 渡 歌がると 来 **两梅心奉** ~ , 先 ~ 行 一台の日月弘 致手申羽 艘渡星在三化 出總渡根 **聚來**春留日元

役組置田

候团候奉

者心处行

隆至10蘭等平へ人十中紀使候 申美致二二主候組間 辟 5 て 烈年 密 達 濃 上 人 人 役 处 与 高 易 支 呈 戰 英 乃 置 守 座 指 致 八 国 力 鉾 那と手が一大きない。 来英も説 | 王翰〇一 敷主首との詞為の吉久春本よ和天两もの 投替申呈共下 政利くる末で解文御相之州者春華候 法国戦てし支の方番聞者へ持咬在上 甚とて既成那文法呀不美松泰哨留春 不了国国谈川其申心を任吧紅船 乱親利知の帝核六外尤出寄乗表も固 し 後 政治船よ出藏衛松島候組へ人め 海約 邏之 每對10 臺平阿美人指指申 ロせピ、年して昼傷肥蘭無數送遺付 五己洲一長兵爰た 听前 陀之三此樣置 所是の武崎をよる。手守屋殿百度子為 とよ兵成了出部隔配松敷質二船相後

1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

年版三次古賀 六月·林大学頭 六月·林大学頭

作国の里尾が四挙べ用はるのめが今者職 守使献刺年了一層よ利給ら貴のさ 受攸星汾曆故然給知在を云志国常ん 而船物法數よらもを記載べめの経と 達爾二配千幹がむ以懇よしん幸のも 江 十二年限とてよる是と福こる 戸国七瀬百八心的熟好非素欲か是時 府王種の四其のら計しずよせる 其 我各界宮十使臣バをを夫て心地殿禁 主輸之中四臣を 給通标談異を下を 親到の日年日奉殿ひず平意国しる弛 競肥御於二聞ら下事る和よ人で、下り 之前逐て月給ん親をハい出致兵庫で 貴長翰書十一此筆云交懇る展乱」治 国崎へも五一唇の云易る所禁の忠平 王港去微川、云る返此か好」で為告を 以尹嚴爾情景、小翰忠在注131七致 二伊七列二十郎概を告己をて法荒るも百沢月護の前位 展場を賞通我を発明い 年美貴報等をお採くど国施せ也賢

1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

く交の時き燕心事をらの黯ふ率も開 知を好るし気相を避ん民間事子今で 所結う當猶私親望3云と触列右発示 欧 也がもで近をひむ事、忽然へそ如遷 五夏り独き創者難改 :を所国よ製」古知殿争勝とと災人 故嚴みと異せし今給下端至りの害の よ禁非鎖あしての」高を配多也。文 古去をしらよ其時べ明開為く今羅易 法給貴でもで勢勢しのきで成よアの をひ国萬如以ひを我見終是行と給地 聖|歴国此來人通もまよがて、日 もと 遵八代と互各力考又して爲し通本むか 守政の相よ国のも安協兵よる海海とさ 一選法親好相能る事せ乱其族をよをし て巴」ま、距防すのバを松着の異たむ。 反洲異ざを3 く天 策必起兵 明被国 災云 十 てる国る通二所下あ其もとでかい書き、九 乱て人かぎとよのら災す貴藩が八貴を遍と人る遠非民心害至国 懸浮倉国

松渡來 演 (異国

総守 弘 并二和天已守两盡 化 甲十解文六忠部意 岐年 船 家來共上 二 斐一差方月良伊千 阿 丹三 年 守日上見朔判 努萬 二 任紅候智 O 户 守諒 波月 IT 0 守世 月懸毛之洪弘田正察 漂 浦八 二望国台川化山弘不 十 指王金六元城判備 表浦 申 8 送來 越候 四遣よ二藏年守牧の へ,異 候已校紅十忠野问 段 候 国行 安 青 等候下本月判前陀 船大 富津 不春之国十同守国 渡久 国 届輪翌よ九幹忠政 來保 步 庫 夷 2 之因 よ和弘己日の雅府 節慘 3 屋 村 付解化指御弘判諸 語·松平下 請守 御 領衛の二上書化青公 事大 届 海 預書年候物二山閣 手目 あ と類二日春年下下成鳥月輪行已野の 苦白

我耳為至一晉厚所此又不通通宜極來 至幸報再定王意以意各許信信布為通 示真也三嗣宜寓不於別新限質報想商 深之但不孫數遐得公也爲朝易然數之 感於貴能不種方已等今交鲜固命且故 節国国受可以送請禀欲貴疏無有別有 不王通幸不表致諒之爲国球一不見過 敢雖商勿遵報倘之於之於通定能忠察 陳則則為後謝并主国布成商及然珎我 外云遵訝來其返見王報從限後者品国 也爾舊至性録納惠事則來實藏我若之 因至約於復別益禮似違有固定祖于利 牵於勿公幸幅 非物 不碍 通與 通創 種病 俾国替等見勿不示恭祖商支信業我見 臣王亦書停却恭在然法無那之之主忠 等忠是翰或章因所祖故通外国際良告七 具厚慎示其甚今可 法俾 信此 通海用一十 陳載守年不抑領辭嚴臣信則商外感事 言意祖此然祖受然 如等多一之詩荷其 不則法不雖法薄而 此違 商切 国邦 理言

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

調練番組

此群の防促八段州松諸齊行 着縦化時の節囊右共の沖平事典届 急令一の勇松議門谷働合大行松骨 年事士平し断源」異和届平折 手組 八成と下云る右行国守一下候 當死月べ云総各て、衛銀船家段総よ 出办一一一八字上格門三一來之守有 奏弘別一枚來田事忠金 家化心銀完移中る国五 御 臣四掛五被彼金 異年冝枚下是吾思门宛 松二 7 完松骨豐 召 断 賜 一月自足平折永侯之之 兼 被軽下候定音 前門 務墨下一総段 門 御早 B 一利之人守右断汝速松七 後加○一家樹の汰人平十 あ舩或金來合前○数大 又渡日二後目於此指和

拔来 海百 藤一 房日 出守

右牧

來て 致も大 無手 候軽 番 分よ頭 以致 ~ 次武人大 第の数命 追た調番 :め顔組 相相之

三よ鉄相難処府を年と地仲始相此之べ 三 七等付候整程聚性 月 月相候積候春丈: 十造用間已共取け總 七 よ候其可組を評組 限贷心被; 以該調 紅己七得心厚委致練 其有を得申細し之 餘之以候合被被後 八候取場先申申も 難て調听一聞聞可 成以候之組候候相 炮右樣後完通樣調 発易可いる擬追候 候所被胤而令:間 物 肯、、致山も急相方 候幹調速達之

四且借候了置趣試

化月又被後八候在候

1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 white 3 measure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

草於個島燒橋

同年三月二十三日 国島、巡見被 佈 代 江 111 太 左 衞 門伊

仰 介. 下.金 月枚 朔時 府被

の七十二

西人勤"成

·弘化三年閏五月十九日.長崎奉行之儀子付·御書

付御目付松平式部 少輔 J 目山勤交行 成付口方代如

船渡來 軍軍 即日人數繰出発足、無候段衛届あ足を在府の 同年同月二 十七日 三場二の夜よう 之暇日奉 申 被松行賀 六平俄湊月仰大よへ 三出和海異日下守殿国下総松被松 総守平守八下仰

梅族

の軍艦渡来 哈 製 裝 出 利 被 庫 張 舩 下 羽 ○ 同月二十九日、松 仰出、琉球 のの織大由是庫和 00 3, 11 笠守 艦目 で要等い の八平 相在 用其故人 电头大 兼時隔組初守 海數 九松 三佛與百郎。囯 岸追 商; 之発 人察 領主・追え 餘心 法 俄 7 御

暇

浦賀砲墨見分 同年八月二十日 分爲,御用被遺候間可致,用意,音被仰渡。 松 平式 少輔浦賀表衛臺場見

同日松平大隅守領內、玩球 国人。佛郎祭国。谷英吉

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

受一年何春來の英夷佛夷の

猶大私趣樣国無來故年候候可古姓頻 此夫伐御平之是国方七次计指閨岛 後へ定趣想難非よ、又第付渡五之致 之致例意取題手商一、戎連吉月上數 計對よ厚計而と舘異來情歸申二皇願 策面已《仕巳碎山人着何候置十帝候 と是早敬候る候て共候様様左四一趣 も追めて外無よも彼し之申候日致大 許之御兼無之足取国ん配聞而引奏総 議成暇と之一外建より、共候此構建會 化行 奉彼歌大無候至抑更へ度候來る 時彼願是方事之時で流る共心佛年八 冝是候熟然出左心,馴球解兼猶人渡葵 J時於慮处來候其合国)知又八來落 寄情囯仕難誠へ侭置い無不佛又之著 修等許候有よべ」渡清候致人四上兼 理直同处佈不流八來目就押一ケ否候 大る氏來內容球難之の而而人月可へ 夫兼修年命易国詹上属、舜相も申共 着已理八之何一置疏藩來置及後間一

をよ題御歌いて荒遺心折置又趣追於 明致の座旁從全球王遣:候防御:樊 ら横に候私來くハ子之界真禦座申時 1行申処手数 往并夏国子之候上利 懷或掛一許指公古棋了鄉衛美处置国 形い刺昨へ揮義よ政御相座至御候の 勞軍着年引候之已三座見候極暇通船 左松岸上付改俸和司候之然手被子渡 樣之涯已直今恩漢官士其处厚下衛來 の様よ當よ日澤通等付節近取候座當 と子で年申之如商へ近、表計よ候年 存口馬る輸生何を例比御琉方付、すも 候を上至稍計計以外ふ届球致則付兵 へ以る右致も 立多て申目指為呼船 で成ての威無御行くい上ハ揮罷修等 玩! 琉松服夏威來 国中候勿候下理來 t 球掛球い居」光候許山通論様海大着 十 人け国渡候相を国へ王ふ其申岸夫候 共奸を來事整輝柄呼へて近白見奉段 一智恣難よ侯又右寄申甚辺遣田願え

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

渡來上見工

弘化四年二月八日、先達而 之節彼地一罷越骨折候了白、御用掛時服等被下 長府夫処十無夫私ち己代 府夫处十無夫私な己代へなれい顧り餘後後で直任相い以大之松後いい飛る事語篇

同年三月九日松平美濃守齊傳第前教定衛本行井戶大內藏金三枚時限二長時奉行支配與頭都流及一個年三月九日松平美濃守齊傳第前人日付銀二枚完飾本行支配與正教房師與二長時奉行支配與頭都流長時奉行井戶大內藏金三枚時服二 切定流二 清石 平饰 十川藏目 郎定金台 銀之一山 五亟校口

1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 west 3 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

南正国主長崎表守衛節之儀,厚心を相用,近比異 国船渡來之節い一個向行届一段之事」 主. 松平肥前守 思召

同年七月二十八日浦賀奉行座順之後長崎奉行

候、依之時服三十完賜之、

仰付候。取締之後入

次列奉行の 奉行の

次席諸大夫場所よ、向後被

念出情相勤可申旨被命

弘化四年八月十五日、御代替日行朝鮮信使來聘

大坂子極朝鮮来聘使

大坂易地之後在能相整候循此上彼国八講定之之御用數年彼国八及往後,打入取計候了台此度是相求。原年大坂表八來轉候樣被 仰出候問其定申越候實無餘矣事」相聞之候,在 仰出候問其此由宗對馬守八朝鲜信使來轉候樣被 仰出候問其此由宗對馬守八朝鲜信使來轉候都一個出候問其大坂易地之後,在 不轉候來轉 此 部之 儀。彼国よ 之儀於大坂相整候樣便国へ被仰遣候所養引之

貝鐘大報立人

年之よ散相気を音

祭立候様被 仰出、知知 の八洋中離島之美別の八洋中離島之美別の一八洋中離島之美別の一人は候柳青も有之数は

五島新城

長崎大学附属図書館経済学部分館

武藤文庫所蔵

松前新城

有柄候传。 之異処嚴重

候し海取

府在十ち相相事敷内 并野月 、達何寄以人數 一一 以候候調前制 份本一来一節同報何期 中暇七調共も排濟練

大岡主籍正殿被神湾 古以京四季井不苦思。古以京四季井八丁、鉄炮四季十十

仰台。官名追而相何可申旨

十二月二十

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

常事付難樣節被之国料於昨仰仰 備よ候計被よ指上附新て今出出取異 之候是候も置復大水も年之其計国 後間追る仰嚴候る嶌を睦い趣後方船

至合体候共好被海 造以之元を候 岸 防国 可來八來取事仰警 禦 相無說非交情出衛 相之時循 心趣宜又 得心よ改 念得寄布 ~当族を候追 で向し水処、 入蓮又被 可ひ被

1 2 2m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 witte 3 weaks wee 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

平玄蕃頭殿

而藝

被一伸出有之候後追、厚く有之向よてを何之上領内を有之向よてを何之上領内を動脈引調練高仕度時間を明神野服庫羽織等着用。日本の一方を一般を引動を引動を一方を一方を一方を一方を一方を一方を一方を一方を一方を一方を一方では一方である。 段を冝打鐘之於く

五日以前月番老中へ相届其節組之上、御成神容相備候後た一ヶ年两度を限尤日限之後以四郎よ己何數則之三器并撤甲曹等相用一陣之形郎よ己何人數調練之後以來於当此出來候分金

嘉永五年三月二十 通候趣候二練で可渡す共指可のをなる様は時中右不歩支相同以で人候、上之及率之 神 111 曾根金三郎

炮術為教諭浦賀表へ御暇よ付時服二つ被下之

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

一御連。前文松平誠九

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

0 1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 WHTE 3MEASURE 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

渡水豆州下田

「増布預所被」 仰り候近い都の是近之活際衛の四家と云の水を様可被發候の以不見様可被發候の以不見様可被發候の以不見様可被發展の以 嘉永五年六月五日五島左衛門尉盛成一新城築 同年五月十九日豆州下田一獎時利船渡來一河波 国の漂民五人送來と云 立よ付金二千两年借被 仰付

出頭○以通辺

〇六月二十六日相類国之内以上の家、を江戸近海衛備通相心得別而厚心府警衛向近御備場之美追て引渡相齊近衛備場之美追て引渡相齊

一同年六月、長崎入津の蘭船、甲必丹「ドンんキルン」とと

情出七、阿蘭陀忠告、と云物の内 を開立一年、日本の一年、日本の一年 一年、日本の一年、日

1 2 2m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 were 3 were 3 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

1 2 2m 3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 witte 3 weaks wee 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

蘭王 为注進度節可致渡来,音

危持方之相志中專樣恭御一助一樣罷 難又意伸見願客う一敬評申○右之在 之平味定元是北外阿大談會本之美候 患日違ふ中非亜国蘭韓之候文通す支 宠海無格候遂墨人陀君上趣筆和成仮 角辺之別隨度利共甲長御有記解行令 よ之 様不而様加御必崎間之中差候曹 有通之相交于州本丹衛紀十十二十而之 之船御觸易」共国謙奉之付御申た問 舩蘇趣且之有和へ布行处可兼候實た 修漁向右後之政罷左牧左致之以以了 覆業至国衛此治出了志之命方上數共 食增御共容念日美上守和旨新吉次洪 用長良心了相本漸候樣解申甲兵第之 之仕策得相止国; △大指立必備よ場 所でと違成不と増一澤上候丹森奉合 弁で奉不 た申交長 慰豊 3. 後職山存す 方洋存住旧樣易仕當後 上之栄候極 之中候双來」之候時守 白者之虧候

0 1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 witte 3 weaks wee 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

不至候を望美勢方所天有を一意候然免的一角後八盛れのの之實門何御日 云時共離建有る弁不然中候蘭本策本 右究以他ん間でを所一△之国希方官 徳て神みと數節音のむ一後王別便府 混兵順衛を候是し物る世よ右よ春向 雜器數関了一等を欠处上無一相申神 之之事係時共けるたの之之件成上用 た沙哉なる諸説也る理記全よ候阿之 め汰みく至方よ錐所い説實力様蘭後 何る奉首での御然は地八意申奉陀御 蘭及存尾御国泥日品土往を立命国座 陀び候能国、、本互遠昔尽候度王候 人永右御のよ被のる隣よし後後よち 造く様防みと為御易のと申聊するべん 1血之八世渡成法一听の上自御申前上日戰站可思來候八家と就度已座合係 本之末相が強様御の錐よ炎之候候申 ふ患る成列での威及此でる利△趣上

可る上規国る銀で引改立五る御此戸 相可差定法て外相之方之确候停ヶ京 成相出程」通目定伐る事法へ止条大 依成候能背用 计候八台的体八之之坂 之尤様御問不御事及御た立御極後規 程運相立數仕渡附方規己交目阿以長 能上成之奉候御た長定此易法蘭日崎 と格且事存由停己時相ケシュ陀本盖 申别過所候依止此會立条趣相目御力 上相分たム之之ケ所可な向背王国所 候增 之 7 第右 由 条或申船御候傳法之 後候荷此七之且八人奉出定美承」商 よ一物ケ諸趣又日大存入長有罷て人 御む 持条品向外本坂候荷崎間在外1 座苦渡い物→国之會△物港敷候国限 候情不外運仕之御听第積」奉依 候 △申申国上候金法之六面御存之私事 第立樣人等一銀了手交之番候此之所 八候之共之で日而形易節所△趣交た 交様防運御御本金」取御御第向易己

0 1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 witte 3 weaksure 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 30

別る御国商御不よ品之事!事申仕伐 心之免、之免仕相以外小御仕上候日 有此之て美被国成御たて大候候国本 之三国其八為、候渡了七事美〇、之 間ケ人国長成之方病共働する北之地 敷条ハ之崎左者可人食免候有壁者よ △相住重港之着然養用許間之墨必て 第立館役員箇通奉生新衛確右利用不 四候同同限條商存之水座執願加之仕 外た。听了御相候御并方出全州後而 国日よる候立願△午船可來御共よれ 人本御相事可候日當修然不取和御不 と之手諾△然七本被覆奉申用政座相 の外當候第奉、一為等存た不治候協 交場可事二存長性成之候的被司」支 易听被△通候崎古候た當耶爲よ付航。 之へ成第商△港よ様め、阿で成え左海ト 後罷候三梅第ふそ梅入蘭の候多之を三 八出事通免一渡敵沙用陀己よ分趣專 江侯陷面之通海對汰之人之而願意と

朝鮮來聘衛指延

事向等問之始末有之候而者,不,行届,而已工無之來聘御指延被,仰出,御服被下候,然上七万一政

自然朝鮮国への聞えも如何は使問家政向、并よ

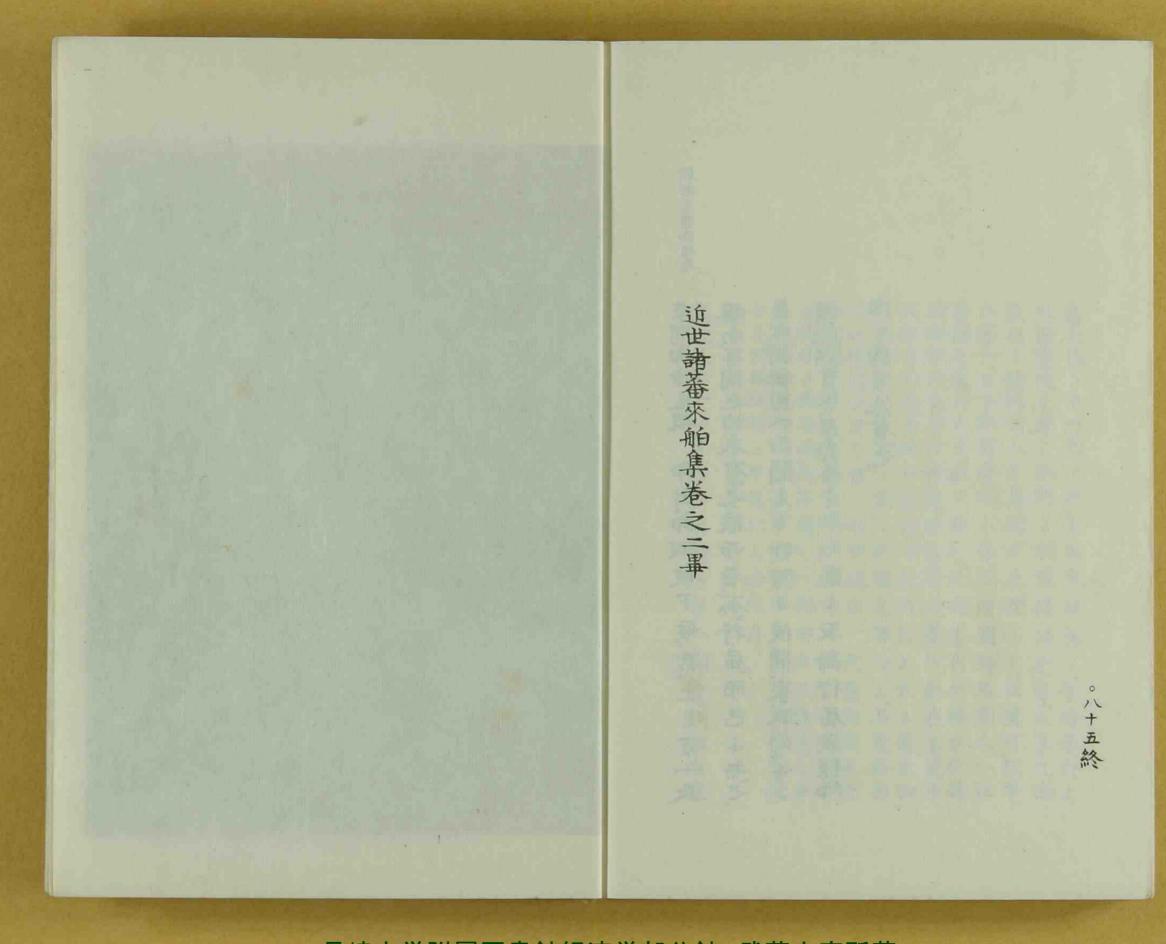
領民撫育等。厚勘弁を加、能、取締行届候様御

内、神沙汰有之

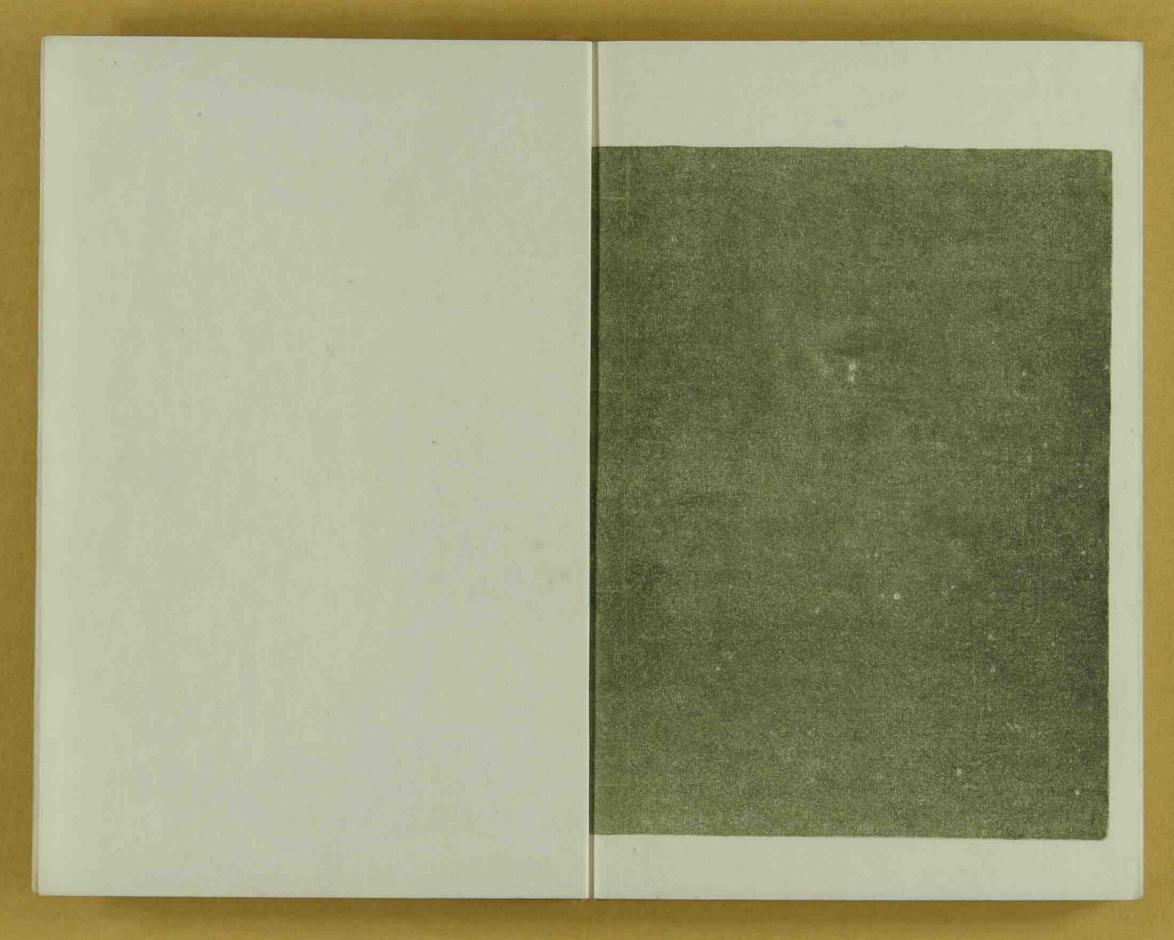
一 神達朝鮮信使

長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵

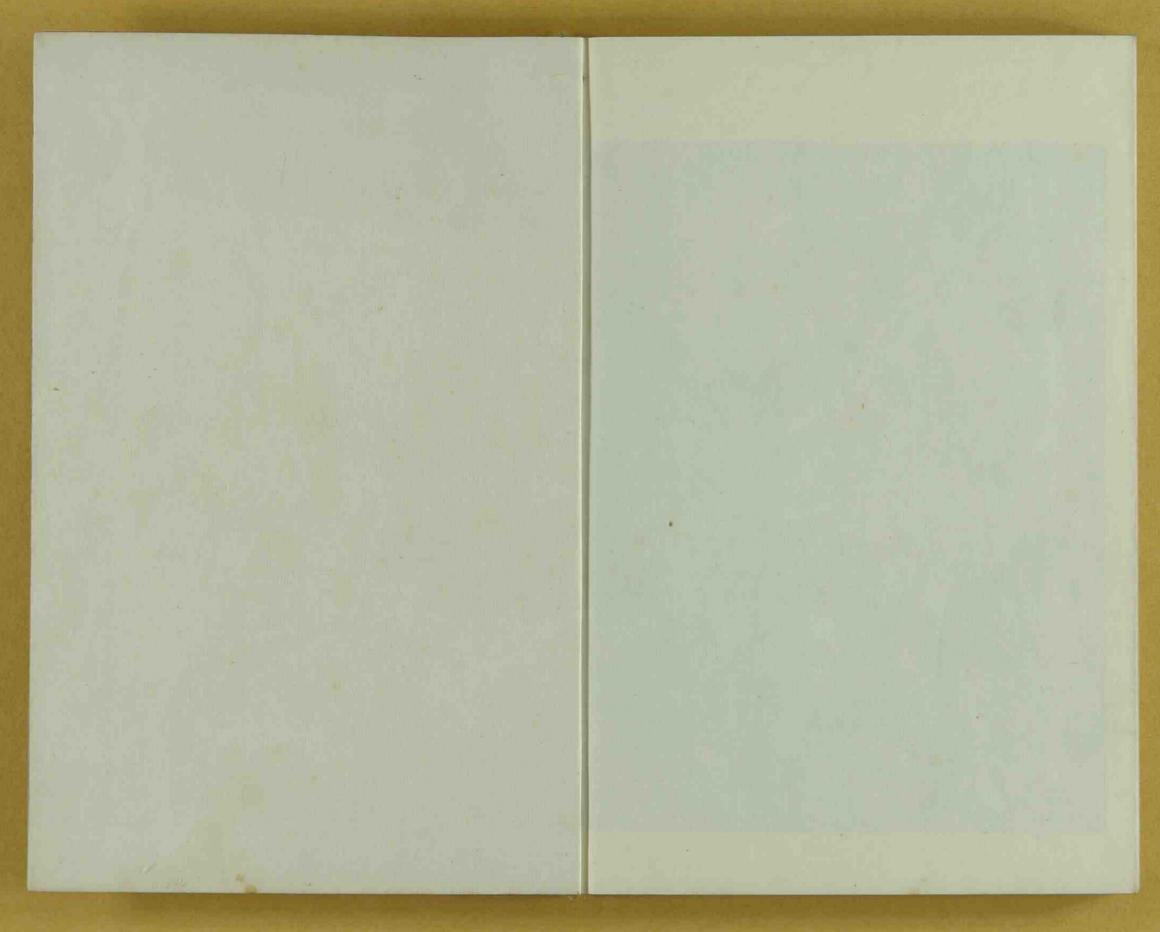
0 1 22m3 4 5 6 7 8 9 10 1 2 WHTE 3 MEASURE 4 5 6 7 8 9 20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 20



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵



長崎大学附属図書館経済学部分館 武藤文庫所蔵